

原子炉圧力抑制室内の異物問題に対する意見のまとめ

今回の一連の原子炉圧力抑制室内の異物問題は、極めて初歩的なレベルの事象であり、誠に遺憾なことと言わざるを得ません。

地域の会は、12月3日の第8回定例会でこの件について意見交換をし、その際の委員各位からの主な発言を下記のとおり取りまとめました。

地域住民の素朴な疑問や意見ではありますが、これら一つ一つに答えていくことが住民の安心と信頼につながるものであります。後日整理・公表する議事録に掲げられる各委員の発言内容の詳細と併せ、国、東京電力ともこれら率直な声を真摯に受け止めて、今後、地域の不信を解消すべく、適切かつ十分な対応が取られることを期待します。

記

- 品質保証の問題であり、不正問題の再発防止策への取組みはまだ道半ばの感がある。
- ミスが報告されない環境ではないのか、定期検査期間短縮などによる作業者の負担はないのか、といった根源的な原因追求がなされて、必要な対応策が講じられるべきである。
- 昨年不正問題に続く異物問題で、地域の経済や住民の意識にも暗い影を落としていることを認識すべきである。
- システムの構築・整備だけでなく、社員教育等の充実を図るなど、関連企業もあげて企業体質、社員一人一人の倫理や意識を改革し、意識再発防止に努めるべきである。

平成15年12月14日

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会